

道づくりだより

第38号

2011.4 島根県道づくり調整会議



道の駅 おろちの里、あらエッサ

Contents

1. 新たに2つの道の駅がオープンしました! (おろちの里、あらエッサ)
2. 意東荒島農道・荒島農業集落道が全線開通しました
3. 国道485号 別府バイパス開通!
4. 西尾ICアクセス(一般県道本庄福富松江線)が開通しました!
5. 春だより「広域基幹林道 金城弥栄線(浜田市)より」
6. 仁万漁港の臨港道路について
7. 直轄道路事業 供用情報
松江道路全線4車化、国道54号(三刀屋拡幅)里熊大橋付近4車化



新たに2つの道の駅がオープンしました！

このたび、島根県内に新たに2箇所の道の駅がオープンしましたのでご紹介します。

○道の駅「おろちの里」

道の駅概要

- ・路線名：一般国道 314 号
- ・所在地：雲南市木次町北原 1603
- ・道のり：中国横断自動車道尾道松江線三刀屋木次 I C から国道 314 号を広島県方面へ約 20km (約 20 分)
- ・開業日：平成 23 年 4 月 28 日 (木)
- ・施設概要
駐車場 56 台、トイレ、公衆電話、
情報コーナー、農産物直売所、農家レストラン



駅全景



道の駅の特徴

当該道の駅は、雲南市中心街から南東約 15km の国道 314 号沿いに位置し、一級河川斐伊川に建設中の尾原ダムのダム湖（さくらおろち湖）を眺望できる環境を有しています。

また、道の駅近隣では、ダム湖周囲に自転車競技施設・サイクリングコース等が整備されており、恵まれた自然の中でスポーツ活動・レクリエーションができる環境が整っています。

物販施設は自然環境と景観に配慮した木造瓦葺となっており、周辺地域で生産された農林水産物を販売する産直市のほか、地元産品を食材に使った農家レストランを備え、利用者が自然や地域の人々とふれあえる施設として期待されます。

○道の駅「あらエッサ」(神話のふるさと 島根の東の玄関口)

道の駅概要

- ・路線名：一般国道9号
- ・所在地：安来市中海町 118-1
- ・道のり：安来市街地から国道9号を米子市方面へ
約7km(約15分)
- ・開業日：平成23年4月26日(火)
- ・施設概要
駐車場89台、トイレ、公衆電話、
多目的広場、情報コーナー、農特産物販売所、和風レストラン



駅全景



道の駅「あらエッサ」



道の駅の特徴

当該道の駅は、島根県及び安来市の東の玄関口として、また、山陰道へのアクセス道の近隣地として、平日・休日の区別なく交通量の多い箇所に隣接しており、安来市と米子市を結ぶ交通の要所に位置しています。緑豊かな田園の背景や周辺の景観との調和を考慮し、農特産物販売所では安来産の木材が使用され、また、和風レストランでは古民家材が使用されるなど木造を基調とする道の駅になっています。

農特産物販売所では、四季折々の新鮮な野菜・果物のほか農産加工品や中海圏域の特産品を販売しており、また、和風レストランでは出雲そばと中海周辺産の旬の食材を使用した食事が提供されています。

意東荒島農道・荒島農業集落道が全線開通しました

意東荒島農道・荒島農業集落道は、八束郡東出雲町大字下意東地内の意東ふるさと農道と安来市荒島町地内の市道久白津田平線を結ぶ延長3,037mの農道で、平成18年度から整備を進めていましたが、去る平成23年4月25日に全線が開通しました。

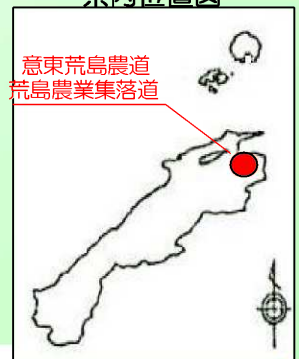


『しまねの農業農村整備すころく』
キャラクター ドジョウのどうじょ君

本地域は、八束郡東出雲町東部及び安来市西部の中海沿いに位置し、水稻を中心に様々な農産物の生産、畜産経営が行われている地域です。

本農道の開通により、農産物の集出荷や通作に係る労力・経費の節減、輸送時間の短縮などによる農業生産性の向上はもとより、沿線集落の生活環境の改善や、集落間交流の活性化が期待されます。

県内位置図



平面図



◇ 竣工を記念して記念行事が開催されました ◇

去る4月17日（日）に『荒島地区農道・集落道促進協議会』主催による竣工記念式典が開催され、地元選出県議、安来市長、安来市議、安来警察署長、松江県土整備事務所長、工事関係者、地域住民ら約70名が参加しました。

竣工記念式典

竣工記念式典において農道・集落道の竣工を祝いくす玉割を行いました。



ウォーキング

式典終了後、地域住民が完成した農道を歩き、竣工を祝いました。

（写真はウォーキング前の記念撮影）



事業概要

事業名：宍道湖中海沿岸地区農村振興総合整備事業（農道、農業集落道）
及び市・町単独事業【共同施行】

工期：平成18年度～平成22年度

事業費：約12億9千万円（市・町単独事業含む）

延長：3,037m

幅員：意東荒島農道 全幅員8.00m、車道幅員6.00m

荒島農業集落道 全幅員9.75m、車道幅員6.00m、歩道幅員2.50m



国道485号 別府バイパス 開通！

隠岐郡西ノ島町地内において、事業を進めていました一般国道485号別府バイパスがこのたび完成し、平成23年3月22日午前10時に開通しました。

今回の別府バイパス完成に伴い、沿線地域の安全性・利便性の向上はもとより、港と直結している臨港道路と一体となり地域の産業や観光の振興に大きく貢献できるものと期待されます。



○ 事業概要

- 開通延長 : L=0.74km(隠岐郡西ノ島町別府地内)
- 事業期間 : 平成17年度～平成22年度
- 道路規格 : 第3種第3級
- 設計速度 : 50km/hr
- 道路幅員 : 車道3.00m×2車線+路肩1.25m+歩道2.5m 全幅9.75m
- 総事業費 : 約5.3億円

○ 完成後間もない 道路利用者の声

- ・旧道より道幅が広くて走りやすい。
- ・まだ、慣れない道のせいか、ゆっくりと安全運転で走るようにしています。
- ・別府港ターミナルまでスムーズに行けるようになった。

○ 工事担当者(隠岐支庁県土整備局 島前事業部)から一言



親しみをもって利用して頂けるよう、西ノ島町マスコットキャラクター・ご当地キャラ?の「活(かつ)イカ活(かつ)ちゃん」を使わせていただきました。この由良比女神社(イカにまつわる伝説が多く残されている)にお参りして以来、イカが釣れるようになりました！



事業の効果を検証するため、朝夕の通勤時間帯に浦郷警察署の協力を得て交通量調査を実施しています。



開通時には道路開通一番乗りを目指し、たくさんの方々が並ばれました。普段見れない光景です。また、沿線の飲食店さんからも開通を祝う看板(メニュー?)が！！工事中、御迷惑をかけたにもかかわらず、これまでの苦勞が吹きとび、喜びに変わる瞬間です。明日の糧になります。

西尾 IC アクセス道路（一般県道 本庄福富松江線）が開通しました！

島根県は、松江だんだん道路の整備にあわせて、一般県道本庄福富松江線の一部区間を西尾 IC アクセス道路（松江だんだん道路西尾 IC と松江市街地を結ぶ延長 1.6km の区間）として整備してきましたが、このたび平成 23 年 3 月 29 日に全線開通しました。

本アクセス道路の開通によって、松江市中心市街地から八束町方面への接続が改善されるとともに、平成 24 年春には、松江だんだん道路が西尾 IC から松江 JCT 間を供用開始することにより、高速道路ネットワークに接続する道路となります。このことにより、地域間交流の拡大や産業振興、文化・観光の発展等、松江市、境港市、米子市との県境を越えた新たな取り組みの基盤となる道路として期待されます。

【事業概要】

- ・事業主体：島根県
- ・事業年度：平成 16 年度～平成 22 年度
- ・工事延長：1.6 km
- ・道路規格：3 種 2 級および 3 種 3 級
- ・幅員構成：西アクセス 車道 3.25m×2 車線
+3.5m×両歩道
東アクセス 車道 3.0m×2 車線



【現場写真】



春だより 「広域基幹林道 金城弥栄線(浜田市)より」

森林整備課

広域基幹林道 金城弥栄線 の紹介



金城弥栄線は浜田市金城町の国道186号から弥栄町の主要地方道浜田美都線を延長24.8kmで結ぶ2車線林道です。

急峻な山地をカバーする作業道や支線林道の幹線林道として、高規格な道を整備することにより森林施業や木材運搬の効率化をはかります。

また、周辺の集落をむすぶことで地域の人々の生活道となったり、森林と山村・都市を結び森林を憩いの場として提供したりするなど多様な役割を期待されていま



イベント情報 ふるさと体験村 「春まつり」



金城弥栄線と ふるさと体験村

金城弥栄線のほぼ真ん中、浜田市弥栄町のふるさと体験村では恒例の春まつりを開催します。皆様のお越しをお待ちしております。

2011 5月4日(祝)

10:00~15:00

イベント内容

石見神楽 田ばやし上演 ヤマメの掴み取り 弥栄のうまいもん出店 etc.



子どもたちは自然のなかでのびのびと遊びます



祭りといえはやっぱりこれです。石見神楽

ほかにも体験プランが満載。おもいっきり田舎を楽しもう！

にま 仁万漁港の臨港道路について

今回は「道づくりだより第35号」の西郷漁港に続き、水産物や漁具などの運搬を円滑に行うために整備した仁万漁港の臨港道路を紹介します。

仁万漁港は島根県のほぼ中央部に位置しており、北から西の方向に開口した港で、冬季の北西の風浪をまともに受ける厳しい地形条件にあります。

漁港の整備は、明治41年に旧潮川河口に防砂堤が整備されたのが始まりで、昭和18年の大洪水では港内埋没するという大災害に見舞われ、以後、河川改修で放水路の開削により、潮川が付け替えられ、昭和26年からは本格的な漁港整備が始まり、現在に至っています。

また、漁港周辺には鳴き砂として有名な「琴ヶ浜」をはじめとする美しい海岸線が形成され、特に夏場には、多数の海水浴客で賑わっており、当漁港の隣接する海岸では平成7年から海岸環境整備事業に着手し、快適な利用空間が整備されました。

昭和48年より臨港道路(L=851m)が順次整備され、岸壁や荷さばき所と集落との連絡が円滑に行えるようになりました。

その中でも、潮川に隣接する橋梁(L=38m)は設置から40年以上経過し、海水の影響を強く受ける厳しい環境に長年さらされ、老朽化が著しい状況が確認されたため、平成22年に橋梁の掛け替えを行いました。この工事により、今後も、橋梁の安全な利用が可能となり、水産物の輸送のみならず地域住民の生活道路として役割を担っていくものと考えられます。



漁港位置図
(大田市仁摩町)



能念寺橋 L=38m
(平成22年掛替)



新しい橋梁に生まれ変わりました！

この地域の漁業といえば・・・シイラ漬け漁！

漬けといっても、漬物のことではありません。(^^)

仁万漁港のある大田市内では、小型底びき網漁業が盛んに行われておりますが、資源維持のため、6月～8月は休漁期となっており、その裏作として行われるのが「シイラ漬け漁」です。

どんな漁法なの？

シイラなどの回遊魚には漂流物の陰に寄り添ったり、集まったりする習性があります。これを利用した漁法が「シイラ漬け」です。海面に漬木(つけぎ)と呼ばれる竹の筏(いかだ)を浮かべ、流れないように固定しておいて、そこに集まった魚を網で捕獲するという「まき網漁業」の一種で、全国的にも珍しい漁法です。



シイラは比較的魚の少ない夏場に、大変重宝されており、例年、スーパーの店頭には刺身や切り身が所狭しと並んでいます。価格も安く、庶民の味方、いわゆる大衆魚です。

食べてみませんか？

ご存知の方の多いことと思いますが、シイラは地元では刺身や切り身で普通に売られています。切り身では分かりませんが、結構齷ついで顔をします。

シイラは個体によって肉の色や硬さが異なり（筋肉中の乳酸の量によります）、肉に透明感がある物は刺身素材に適しており、肉が白っぽい物はムニエル、フライや冷燻（いわゆる魚の生ハム）の素材に向いています。シイラはフライ素材としては、ふっくらサクサクとして美味しく、国産のフライ素材としてもっと活用できると思われます。ちなみにハワイではマヒマヒとよばれ高級魚となっています。



フライの調理例



冷燻の調理例

直轄道路事業 供用情報

山陰道（松江道路）全線4車線化完成



松江道路の東出雲インター付近で進められていた4車線化工事が完成し、3月26日に開通しました。この開通により「松江道路」全線が4車線化となりました。4車線化により走行速度低下の解消等が期待されます。



国道54号（三刀屋拡幅） 里熊大橋付近の4車線化完成



国道54号の里熊大橋付近において4車線化工事が完成し、3月31日に開通しました。市街化や近隣の開発等に伴う交通渋滞の解消や歩行者の安全確保が期待されます。

